

平成24年度 第2回
(2012年度)

吹田市都市計画審議会常務委員会議事録

日時 平成24年11月14日(水) 午前10時00分

場所 吹田市役所 低層棟3階 入札室

平成24年度（2012年度）第2回都市計画審議会常務委員会議事録

日時：平成24年11月14日（水）午前10時00分～11時30分

場所：吹田市役所 低層棟3階 入札室

○配布資料

- 資料1 吹田市都市計画マスタープランの見直し方針の策定に向けて
- 資料2 吹田市都市計画マスタープランの見直しに関するアンケート調査（速報版）
- 資料3 アンケート結果による現行マスタープランの評価について（案）
- 参考資料1 市民アンケート主な修正箇所及びアンケート票
- 参考資料2 周辺都市の定住意向（当日配布）
- 第1回常務委員会議事録

1 開会

事務局：ただいまから、平成24年度第2回都市計画審議会常務委員会を開催させていただきます。開会にあたり、都市整備部長の森からごあいさつ申し上げます。

森部長：おはようございます。本日は、公私ともご多忙中、ご出席を賜りありがとうございます。平素は本市の都市計画に係るまちづくりをはじめ市政全般につきまして多くのご意見ご助言を賜っていることに重ねてお礼申し上げます。

今回も第1回に引続き都市計画マスタープランの見直しについて、委員の皆様には専門的な観点から議論やご意見をいただきたいと存じます。

ご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

事務局：本日は榎谷委員、上甫木委員は、ご欠席ですが、委員の半数以上のご出席をいただいていますので、吹田市都市計画審議会条例施行規則第5条第2項の規定により、本委員会は成立していることをご報告します。それでは、吉田会長、会議の進行の方をよろしくお願いいたします。

吉田会長：皆様方、おはようございます。お忙しいところ、本当にありがとうございます。

今回も前回に引き続きまして都市計画マスタープランの見直しを議題とさせていただいております。

事務局の方で前回の続きということで説明を始めさせていただきたくと思いますが、今回、傍聴の申し込みはありませんか。

事務局：ありません。

2 議題：都市計画マスタープランの見直しについて

- (1) 見直し方針の策定に向けて
- (2) アンケートの調査結果【速報値】及び考察(案)について
- (3) アンケート結果による現行マスタープランの評価について(案)

事務局：《資料説明》

吉田会長：ご質問はありませんか。

A委員：大変よくまとめていただき、かなりのことが理解できました。アンケートはクロス集計が重要だと思います。年齢構成で結果がどう変わるかが重要で、集計によって年齢構成による違いがわかります。施策を実行するうえでは、地域区分が大事だと思いますが、吹田市のこの6ブロックの地域区分が合理的かどうか疑問です。今回のアンケートでは、6つのゾーンでの回答になっていますが、細かい町丁目はわからないということですか。

事務局：今回の回答項目ではわかりません。

A委員：今後の課題になりますが、本来、細かい町丁目に区分しておいて、集計するのが良いと思います。例えば道路や自転車など空間的な問題が指摘されており、今の6つのゾーニングでも、大雑把にはわかりますが、都市計画を実行するときには、どこで何をやったら良いかというのは、もう少し細かく見ていかなければわからないということもあると思います。今回はやむを得ないと思いますが、将来的には、もう少し細かく見て、問題点のポイントに絞って細かく集計していくようなやり方でデータを出されるのが大事だと思います。形式的なマスタープランといいますか、「やりました。」ということだけになると困るので。もうひとつ、指標化できるものが本来あるはずで。たとえば、自転車専用道路の整備について、自転車全体のネットワークの中で何%が目標だとか、具体的な目標設定が今後は必要になるのではないかなと思います。すべてを定量化できるとは思えないですが、できるだけ目標値を設定して、何年ぐらいを目標にしてやるかというような考え方を導入することが大事だと思います。なぜかと言うとアンケートでは、必ず不満、満足が出てきますが、不満が何%だから良いのか悪いのかがわかりません。これくらいでやむを得ないという考え方もあるし、これは大変問題だと考えるのもあります。定住意向は他市と比較しているのでも、それなりの評価が行えますが、他の項目について、それ以上にしていこうと努力するのは必要だけれど、これからの財政の枠の中で闇雲に努力するのか、その値で辛抱するのかというあたりで、目標値を立てるのはすごく大事だと思います。

吉田会長：ありがとうございます。重要なお指摘を2点いただけたと思います。

B委員：10代から40代の方で今後の重要テーマとして、「防犯面で安心できるまちである」を選択した割合が、多いのか少ないのか知りたいのですが、母数は559ですか？積上

げももちろん重要ですが、全体の中での割合が大事です。防犯面が多く選択されるような出来事が何かありましたか。

事務局：防犯面は、これまでの評価でも比較的高くなっています。

B委員：40代の人はいたい子どものいる世代ですが、この人たちが常にこれに関心が高いのか、吹田市に何かあったから高くなっているのか、一番気になるところです。何割の方が答えたかという数字を示していただいた方が話しやすいと思います。定住意向に関しては74%で十分高いですが、豊中市、枚方市はものすごく高いですね。これくらいを目指したいと思うのですが、吹田市は住宅の内訳として社宅が多いなどの事情があるのですか。

事務局：社宅は減少傾向ですが、江坂などは単身赴任で一定期間住まれる方も多いです。ニュータウンなどは定住意向が高いですが、公共賃貸住宅等もありますので、それがどう影響しているかという部分も分析が必要かと思います。

B委員：住宅など他のデータと見比べてみる必要があるかと思います。

C委員：年齢と世帯構成とを組み合わせると、回答者のライフステージがある程度見えてきます。子育て層、高齢で単身や夫婦しかいない層、若い層など大きく3つ4つくらいに分けるとわかりやすいと思います。そういう方々のニーズの分布がどこにあるのかという集計をすると、見え方が違ってくると思います。高齢者が多く答えているので、その意見が強く出ている部分もあると思います。ライフステージ別にクロス集計すればどういうバイアスがかかっているか、どの地域にどういうライフステージの方が多くいるかということで、整備目標も地域別に良く見えてくるのではないかと思います。有るデータを使うとすれば、その辺の組み合わせで類型を作っただけだと良いかと思いました。それから、満足度と重要性の2つの設問を組み合わせたプロットはされていますか。満足度が低く、重要度が高いものがこれからのポイントになってくると思います。「歩行者や自転車が快適に利用できる道が整備されている」は満足度が1番低く、重要度は2番目に高いので、皆さんが課題としており、「高齢者が安心して暮らせる住宅やサービスが整っている」は、高齢者が多く答えているということもあると思いますが、全体でも満足度がマイナス側に振れていて、重要度は1番になっていますので、重要かと思います。満足度が一番高い「身近な範囲にお店や病院などの生活施設が充実している」は重要度が6番目なので、こういった特性を今後も伸ばしていくという見方もできると思います。単純にこの2つの設問の結果を平面にプロットしていただくだけでも傾向がわかると思います。

吉田会長：C委員のご指摘は、クロスデータの取り方についてで、ライフステージの枠組みを設定し直して、それぞれの満足度、不満足度、重要度をグラフ化すると課題がかなり見えてくるということでした。A委員のご指摘は、細かい地域でデータを取ること、たとえばある町の数値が跳ね上がっていれば、早急に調査等々して対策

するなど、施策への反映ができるということだったと思います。A委員には、数値目標についてもご指摘いただきました。B委員のご指摘とも関連しますが、他市との関係での数値目標や満足度が低いものについての数値目標を設定することにより、必要な方策が見えてくるかもしれません。10代から40代の防犯への重要感覚が強いことは私も気になったのですが、アンケートの直前にニュースはなかったですか。

事務局：思い当たるところはないです。

吉田会長：一般論として経年的にも○を付けることが多いということかも知れませんが、街灯や交番など、防犯上何が問題で何が求められているかについて追いかけていく必要があるかもしれません。

B委員：C委員が言われた現状評価と重要度の話は資料3とは違うのですか。

事務局：資料3は評価だけの集計になります。

B委員：では、やはりクロスでの評価が必要ですね。

C委員：単純にプロットするだけで良いと思います。

B委員：地域別や年代別で出せば、とてもわかりやすいと思います。

吉田会長：資料3で評価ランクに×がついている「歩行者や自転車」「駅前や駅周辺」「産業集積」については、マイナス評価を出している方が、どこに住んでいるのか、6地域でもある程度見えるでしょうが、さらに絞るなど今後のアンケートの取り方に生かしていただきたいと思います。クロス集計については、もう少し複合させて、ライフステージごとの意識を把握し直すのも興味深い方法かと思います。また、母数を表記していただければと思います。

事務局：改めて表記しますが、40代までの母数は559人です。

吉田会長：資料3に、マスタープランの評価についてのクロス集計がありますが、マスタープラン見直しでは、特に評価が低い箇所について、何らかの修正や具体的な改善策を出していくことが求められていると思います。たとえば「歩行者や自転車」に関しては、「都市活動を支えるネットワークの形成」について、吹田市内の自転車関係の道路ネットワークや近接市の自転車道の状況、歩道と車道の区分の状況などを調べる必要があり、不満が特に強かった地域では『緊急に自転車道・歩行者道の整備が求められている』などという修正を、また「みどりのネットワークの整備」などについても、評価が低い箇所から引き出して、見直しの具体的な案を作っただけであればと思います。「バリアフリーのまちづくり」とか「ライフスタイル」のところもマスタープランの記述上、もっと踏み込んだ書き方が求められている感じを持ちます。「駅前や駅周辺」「集積、まちに活力」については、どの地域で活力がないと言われているのかで、たとえば『にぎわいがないという数値が出ているので、ここでの早急な企業誘致が求められる』といった修正になるかもしれません。

D委員：良くまとめられていると思います。定住意向については、他市と比べて低くなっていますが、私の感覚と反対の結果です。仕事柄、高槻も茨木も知っていますが、

吹田が一番充実していると自負しております。個別項目については、だいたい表現されていると思いましたが。商業施設の件はJR周辺のことだと思います。自転車については、道路の整備もありますが、マナーの問題もあると思います。次元が違いますが、通勤通学時に信号無視したり、横断歩道関係なしに道を渡ったりするのが危ないといったこともアンケートに出てきていると思います。

吉田会長：たしかにおっしゃる通りです。

事務局：自由記述について集計しているところですが、自転車のマナーについては比較的上位になっています。先程の説明に、歩行者目線で自転車が危ないというのがありますが、これはマナーも関係すると思います。歩行者・自転車と自動車の分離以前の問題も包含されているのではないかと考えています。

D委員：自転車専用道は、朝日町周辺などのにぎわっている所にはつけれないと思います。整備できる場所は、整備したら良いと思いますが、できないところでは、歩道は降りて押していくなど、規制するしかないと思います。

吉田会長：「そう思わない」を選んだ理由の欄に書いてもらっているのですね。

事務局：最後のページに自由意見があり、そこにも書いてもらっております。現在、類型化して集計中です。

吉田会長：集計はいつできるのですか。

事務局：次回までにはできると思います。

吉田会長：マークシートで、できないのですか。

事務局：今回は答えやすさという意味もあり、手軽に○を付けていただくようにしました。意識の高い方が多く、自由意見をたくさん書いていただいています。

事務局：自転車保有台数について、吹田市だけの数字はないのですが、全国的にみると人口100人当たりの保有台数が、大阪府は2位で、近畿が全般的に高くなっています。自転車振興協会のデータでわかるのですが、総じて地価が高く鉄道が発達しているところでは自転車が多く利用される傾向で、逆に長崎県など坂が多いところは自転車の利用が少ない状況です。自転車の利用が多いと、一般的には自動車が少ないので、自転車については、大事なポイントになってくると思います。整備することですべてうまくいくわけではなく、マナーの問題も当然出てくると思うのですが、一定、整備の方向ではいくべきかと考えています。4年前のデータですが、人口比で7割強が自転車を保有しています。保有台数は、38年間で2倍になっています。ここ10年間は上がり傾向のほぼ横ばいですが、車が減る傾向とは別に、今後もどちらかというところでは上がっていく状況にあると考えられます。

D委員：定住意向については、各市でアンケートの取り方が違うのではないですか。

事務局：そのまま比較はできません。豊中市は市内で移動した人も算入しています。

吉田会長：他にありますか。

事務局：現在、総合計画の見直しが、やや先行しつつ、ほぼ同時に行われています。総合計画は、これまで基本構想、基本計画、地域別計画で構成されてきました。現時点では未定ですが、現在の議論では、地域別計画の概念を見直す検討を行っています。都市計画マスタープランは、全体構想、地域別構想で構成しています。これまで、地域別については、総合計画を踏まえたものとしてきました。そのためJR吹田駅の北と南に線が入るような形になっていますので、たとえば駅勢圏で括るなど、都市計画における地域のあり方について、検討していきたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。

吉田会長：ブロックの設定は、幹線道路や鉄道等を骨格とし、土地利用に一定の共通項を見出し得るということだと思いますが、駅の北と南で分けるなど非合理的な側面もないこともないので、見直すということですね。

E委員：データの加工に関して、一つ付け加えるとすれば、設問間の相関係数がわかると対策が立てやすいと思います。たとえば「生涯学習、文化活動、コミュニティ活動の場が充実している」に答える人は「高齢者が安心して暮らせる住宅やサービスが整っている」に答えやすいなど、相関係数が出れば、これを改善すればこれも良くなるということで、一挙両得、費用対効果で見た時に効率的な政策が戦略的に選択できると思います。

吉田会長：この年齢層にこういう政策を、この地域にこの政策を入れると、連動して良くなるということが見えてくるということですね。面白いご指摘です。

D委員：単身者の話ですが、若い人や単身赴任者よりも高齢単身が増えているように思います。同じ単身者の括りでは見えにくい感じがします。

事務局：アンケート作成時に委員の皆様にもご意見をいただき、夫婦と子どもについても、小学生以下の子どもがいるのかどうかなど区分できるようにしました。基本的にはそういう集計も可能です。

B委員：ライフステージの件は、ぜひやっていただきたいです。

資料3のアンケートの評価ランクが◎になるようにするのが、吹田市のマスタープランとして正しいのか、住んでおられる方が評価すればそれで良いのか、ということがあり、私たちが一番考えなければいけないところだと思います。歩行者や自転車が快適に、自動車が快適ということに関して、こんなものはいらぬという人は必ずいます。駅前のにぎわいも吹田市には不要で、梅田に行けば良いと思っている人もいます。吹田市としてマスタープランをどう作るかということは、住民が◎をつければ良いというものではないということをよく認識したうえで、この委員会でも議論しないとイケないと思います。住民の意見は大事ですが、評価されていないものが必ずマイナス評価というわけではないと思います。たとえば千里山には4m以下の道路がたくさんありますが、良い住宅地です。住環境の認識の仕方はいろいろあり、必ずしも評価ランクを◎にするのが良い吹田市にならないということを認識

することが大事なところだと思います。それから「わからない」「どちらでもよい」が多いのはPR不足の可能性も高いと思いますので、PRも対策の一つに入れていただきたいと思います。

吉田会長：貴重なご指摘をいただきました。ありがとうございます。

ア) その他

吉田会長：マスタープラン見直しの素材を受け取ったことになろうかと思います。今月末の都市計画審議会の場で、常務委員会で作業を続けていることを報告しようと思っています。

事務局：第2回都市計画審議会は11月28日(水)午後2時から中層棟4階第4委員会室にて開催いたしますので、よろしく願いいたします。

吉田会長：それでは閉会します。どうもありがとうございました。

以上